

会長通信 No. 19

2017年1月5日

(一社) 岩手県中小企業診断士協会

会長 宮 健

目 次

1. 年頭所感「7回目の酉年を迎えて」

2. 10月以降の動き

3. 経営診断学会との合同研究発表会

4. 実践診断士の会の活動

※添付資料「新聞記事」3件、資料1件

1. 年頭所感「7回目の酉年を迎えて」

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお祝い申し上げます。
会員の皆様にとって、躍進の年になるよう祈念いたしております。

さて、私は今年の年賀状に「おかげさまで7回目の酉年を迎えました」と書きました。7回目ですから、「 $7 \times 12 \text{年} = 84 \text{年}$ 」(84歳)となりますが、ふと疑問に思ったのは、生まれた年(1933年=酉年)を加えると「8回目の酉年」となります。どちらの言い方が正しいのか、一瞬考え込んでしまいました。しかし、私が初めて酉年を迎えたのは12歳の年(1945年)と考えるのが自然かなと思いなおし、やっぱり「7回目」でいいのだと結論づけました。

これと似たような話で、「孟母三遷」という四字熟語があります。「広辞苑」を引いてみると、「孟子の母が住居を、最初は墓所の近くに、次に市場の近くに、さらに学校の近くにと3度遷(うつ)しかえて、孟子の教育のためにより環境を得ようとはかった故事」とあります。教育ママの執念はすごいですね。

しかし住んだ場所が3カ所ということは、転居したのは2回ですから、「三遷」ではなく「二遷」が正しいのではないかという疑問がわいてきます。

似たような話で、「七転八起」があります。7回転んだのに、なぜ8回起き上がるのかも不思議です。この疑問に対して、最初に転ぶ前は起きていたのだから、「八起(やおき)でいいのだ」という考え方もあります。

というわけで、新年早々理屈っぽい話を持ち出しましたが、今年は、疑問に思ったらすぐに調べることを心がけたいと思っていますので、ご容赦ください。ともあれ、2月には84歳の誕生日を迎えます。なんとか元気で過ごしたいものだと思っていますので、よろしくご協力の程をお願い申し上げます。

なお、今年のキーワードは「信頼」です。「信頼される人間になりたい」という思いはもとより、相互に「信頼関係を醸成したい」という願望もあります。

2. 10月以降の主な動き

- ①10月18日(火)「会長通信 No. 18」発行
- ②10月27日(木)県経営支援課「グループ補助金」審査会に出席(宮)
- ③11月7日(月)岩手県生活衛生業大会に出席(宮)
- ④11月9日(水)盛岡財務事務所「金融問題説明会」に出席(宮)
- ⑤11月10日(木)材木町商店街振興組合設立50周年記念式典に出席(宮)
- ⑥11月12日(土)経営診断学会との合同研究発表会開催(宮、菅原光政他)
- ⑦11月22日(火)岩手県士業懇談会に出席(宮)
- ⑧12月7日(水)岩手県信用保証協会外部評価委員会に出席(宮)
- ⑨12月15日(木)東北経済産業局の連絡会議(県公会堂にて)に出席(宮)
- ⑩12月16日(金)産業振興センターの理事会に出席(監事として)

3. 経営診断学会との合同研究発表会を開催

毎年恒例の標記催しを、11月12日(土)14:00から17:00まで、アイーナの県立大学キャンパスにおいて開催しました。

(1) 基調講演 「診断学会と診断士協会とのコラボについて」(宮会長)

(2) 研究発表

- ①「未熟練者を対象とした作業手順表示システムの開発と外観検査業務への適用」(県立大院生 小西貴之氏)
- ②「移動するモノを対象とした製造プロセス向けIoTの提案」
(県立大准教授 堀川三好氏)
- ③「農業会計に関する研究調査報告」
(県立大名誉教授 当協会理事 菅原光政氏)

なお、学会と協会のコラボレーションの経過等についてまとめた私の原稿が、「企業診断ニュース」1月号に掲載されていますので、ご覧ください。

4. いわて実践診断士の会の勉強会

山村勉会員を中心に、主として企業内診断士の会員たちが集まって勉強している12月例会が、12月10日(土)に「やまなか家 大通店」で開催され、私も参加しました。今回は参加者全員(8人)が思い思いのテーマで、数分間の持ち時間内に研究発表や身近な話をするという方法で行われました。

【付】その他添付資料

- ① 新聞記事3件(岩手日報「論壇」他、日刊建設工業新聞「ズバリ寸評」)
- ② 資料「当協会と経営診断学会東北部会とのコラボの歴史」

以 上



一般社団法人中小企業診断協会(全国組織)が、今年から11月4日を「中小企業診断士の日」と定めて、その日の前後に各都道府県の診断士協会がそれぞれ趣向をこらした行事などを行うことを勧め

ている。筆者が会長を務める岩手県中小企業診断士協会では、日本経営診断学会東北支部(筆者が部長)と合同で、11月12日に開催することになっていた「研究発表会」を、急ぎよ

「診断士の日」の行事とす

この合同研究発表会は、2007年に初めて開催して以来、ほぼ毎年行っている。

なせ11月4日が「診断士の日」であるかについて、診断協会のPR用チラシに

「昭和23年11月4日、我が国の「中小企業診断制度」が発足しました」とある。今から68年前のことになる。

中小企業診断士 浸透願う

宮

健

れでもなお、

「昭和23年11月4日、我が国の「中小企業診断制度」が発足しました」とある。今から68年前のことになる。

1948(昭和23)年といえは、太平洋戦争が終わって3年。わが国経済は、

また戦争の傷跡をひきずっていた頃である。あらためて戦後の歴史をひもといてみると、この年「中小企業庁設置法公布」「中小企業診断実施基本要領制定」など

63年には「中小企業基本法」が制定されて、診断士の国家試験が始まっている。

診断協会の岩手県支部設立は84年であるが、この時はすでに「中小企業診断士」に名称変更がなされており、略れて「士業」としての地位も固まっている。その

の地位も固まっている。その

「(当時の名称)の登録制度の創設」「社団法人中小企業診断協会」の設立と続き、

12年からは、各都道府県支部が一斉に「一般社団法人」として独立組織になり、中小企業の経営診断の業務

に従事する者としての社会的責任を重く受け止めながら、岩手県協会の約40人の会員がそれぞれの立場で活躍している。

近年は特に、津波や水害等の被害によって痛手を被る県内中小企業も多く、診断士の活躍の機会が多くなっている。

「中小企業診断士の日」を機に、被害を受けた中小企業の復興に資することはもとより、県内の中小企業の経営力強化のために、今後も緻力ながら力を尽くしたいと思っている。

(盛岡市 県中小企業診断士協会会長 83歳)

東証一時100円安 ショック

9日の東京金融市場は、米大統領への共和党のトランプ氏就任に伴う世界経済の混乱に身構える「トランプ・ショック」に見舞われた。選挙の開票が進んで米国の金融政策や対日貿易に批判的なトランプ氏が優勢になると、日経平均株価(225種)は全面安となり、下落幅は前日比で一時1000円を超えた。日相場も1ドル101円105円台で変動した。

警戒感も海外の株式市場にも波及。アジアの主要な株価指数は値下がりし、欧州の市場も軒並み下落して始まった。年内にも実施されるとみられた米追加利上げや安全保障政策、自動車などの貿易への影響が予測困難になるなどの懸念が強まり、安全資産とされる円が買われた。ただ、ドルは円に対して売られた後、トランプ氏

の勝利が伝わると思速に買い戻された。

日経平均株価の終値は1万6551円24銭で、8月

3日以来約3カ月ぶりの安値水準。下げ幅は前日比919円84銭で、今年に入ってから6月に英国が欧州連合(EU)離脱を決めた時に次ぐ大きかった。

発言や政策注視 県内経済界

米大統領選を共和党候補トランプ氏が制した9日、県内の経済関係者は一様に驚きを持って受け止め、国内外の経済の不透明感や円高の進行を警戒する声が続出した。一方、混乱は一時

的とする見方も。しばらくは新大統領の発言や政策を、慎重に見守るしかないといった状況だ。

置業支店長は「人工知能(AI)による売買で、売りが売りを呼んだ。個人投資家は下がったところで買う動きの方が強かったと説明。今後について「下げは短期的。共和党は上下両院も過半数を占め、トランプ氏次第では意外と良い方向に進むと思う」と語る。

盛岡セイコー工業(磐石町)は製造する時計部品が完成品に組み込まれた後、主に北米やアジアに輸出される。林業関係者も「選挙結果に『庄勝』という感じ」と意外感を示し「円高などで半年から1年程度は経済の冷え込みが懸念される可能性がある。北米市場は

トランプ氏が脱税を主張する環太立洋運協定(TPP)への影響も出そうだ。県農協中央会の大川隆彦専ら、日本政府に対し、農業者の不利にならないよう引き継ぎ十分な審議や説明、対応を求めていく」と言葉を遣う。

県中小企業診断士協会の宮部会長(盛岡市)は「リーマンショックのように金融システムが壊れたわけではなく、混乱はそんなに長く続かないだろう。個人も経済も、常に(予期せぬ)リスクと背中合わせであることを自覚しないといけない時代だ」と受け止める。

大和証券盛岡支店の西田

■日本経営診断学会東北支部が研究発表 日本経営診断学会東北支部(宮部会長)の研究発表会は12日、盛岡市盛岡駅西通のアイーナで開かれ、会員や学生らが研究成果を披露した。 県中小企業診断士協会が協賛し、約20人が参加。同協会長も務める宮部会長が「診断学会と診断士協会のコラボについて」と題して基調講演し「近年は全国的に中小企業診断士の受験者数も増加し、本県では津波や水害被害により必要性が高まっている。今後も途切れることなく活動を続けたい」と呼び掛けた。 県立大の堀川三好准教授らの発表も行われた。

宮健のズバリ寸評



宮健氏

年近くも前から、民主・共和両党の候補者選びが熱を帯びていました。

民主党のヒラリー・クリントン氏が、

と(予想外の)ことでした。EU離脱については、本欄の6月28日は、

つたことが、本選挙での敗戦まで尾を引いたように思えてなりません。

一方の共和党は、当初十数人が名乗り

を上げ、本命視されていたブッシュ弟が早々と撤退するなど混戦模様で、最後は

1氏の敗因については、既存の政治家としてのエリート臭が嫌われ、「女性初」

にもかかわらず、あまり女性票獲得につ

ながらなかったという見方があります。確かに、夫・クリントン時代はファース

どの不透明感によるドル安(円高)・株安の予想をあざ笑ったかのように、円安・株高(日米とも)が続いています。

実はわたしは、トランプ氏の勝利が確定した日の夕刻、岩

手日報の記者から電話取材を受けました。以下は、11月10日の同紙記事の一部です。

安していました。この傾向がしばらく続くのかという「悲観的な見方」もありましたが、わたしはあえて、「そんなに長く続かないだろう」と、楽観的な見方を披歴しました。

結果は、円高・株安が一日だけで終わり、翌日から反転しました。米国経済が好調で、「利上げ」

が噂されていることなどが「円安」の要因として上げられます。さらに、トランプ政権への期待(米

トランプ・円安・株高

28.11.30

年未まで11月を残すのみとなりました。月並みな言い方ですが、「今年もいろいろあったな」といつが実感です。そんな中で、「英国のEU離脱」と「米大統領選でトランプ氏勝利」の二つが、特に印象深いでき

「よもや」のトランプ氏が抜け出して候補者となり、本選でも勝利を収めました。

トレディとして、またオバマ時代(前半)は國務長官として、すでに「既成の政治家」であり、清新さに欠けるといふイメージがありました。

「リーマンショック」のように金融システムが壊れたわけではなく、混乱はそんなに長く続かないだろう」

トランプ氏の勝利が確定した日の株価は、午後になって急落(一時1000円

オバマ大統領の任期は、2017年1月20日で終わります。制度上、3期目のない米国では、2

一説には、「トランプが勝つたのではなく、ヒラリーが負けたのだ」とも言われています。ヒラリー

さて、予想外とも言えるトランプ氏ですが、外交や経済な

トランプ氏の勝利が確定した日の株価は、午後になって急落(一時1000円

が根底にあるようにです。(中小企業診断士)

日刊岩手建設工業新聞
(毎週1回執筆中)

【参考資料】

◎日本経営診断学会東北部会と岩手県中小企業診断士協会とのコラボの歴史

日本経営診断学会理事・東北部会長
岩手県中小企業診断士協会会長 宮 健

年月日・会場など	合同研究発表会における発表者・テーマなど
平成 18 年 (2006 年)	日本経営診断学会東北部会設立 部会長・芝田耕太郎 (県立大学宮古短大教授) 診断協会県支部から宮健など 4 名。会員数合計 13 名
平成 19 年 12 月 1 日 (2007 年) 県立大学アイーナキャンパスにて (以下同じ) 第 1 回合同研究発表会	診断学会会長・岡田匡令 (淑徳大学教授)、副会長・新井信裕 (後に診断協会会長) など参加。 基調講演: 新井信裕「民間の者となった中小企業診断士が選ぶべき進路～わが国のコンサルタントビジネスの近未来を予見する～」 発表者: 福永栄一 (青森大学)「運用を重視したユーザー中心の情報システム開発法」 同 : 宮 健「第三セクターの経営診断」 同 : 水元明則 (中小企業診断協会専務理事) 「中小企業診断協会に期待される新たな展望」
平成 20 年 部会長交替 (2008 年)	東北部会長・芝田耕太郎退任。宮健が部会長に。 学会理事に宮健・菅原光政 (県立大学教授) 選任
平成 21 年 6 月 27 日 (2009 年) 第 2 回合同研究発表会	学会会長・海老澤栄一 (神奈川大学教授) 参加。 ご挨拶と講評をいただく。 発表者: 宮 健「大学生たちと取り組んだ商店街・個店の活性化事例」 同 : 菅原光政「農業経営における情報化の考察」～産直センターあかさわの POS システム導入～
平成 23 年 6 月 21 日 (2011 年)	中小企業診断協会 (本部) と日本経営診断学会が産学連携協定を締結。診断学会は「経営診断における理論と実践の融合」をめざす (キャッチフレーズ)。
平成 24 年 9 月 28~30 日 (2012 年)	診断学会総会・研究発表会が北海道大学で開催され、宮部会長が特別講演「東日本大震災と中小企業経営」を行った。東北部会から、菅原理事など数名参加。
平成 24 年 12 月 1 日 (2012 年) 第 3 回合同研究発表会	発表者: 宮 健①「東日本大震災と中小企業経営」 ②「企業内診断士の専門性発揮による社会的活用」

<p>(第3回続き)</p>	<p>発表者：堀川三好（県立大学准教授） 「地域における情報システムの活用について」 同：佐々木丈（県立大学院生） 「個人観光客を対象とした観光支援システムの開発」 同：菅原光政・植竹俊文（県立大学）共同発表 「カンボジア・ベトナム進出企業の現地視察報告」</p>
<p>平成25年11月9日 (2013年) 第4回合同研究発表会</p>	<p>発表者：宮 健 「特定非営利活動法人の経営課題について」 同：畠山稔（診断士協会）「県内中小企業の『事業継続計画』（BCP）への取り組みについて」 同：江島良幸（県立大院生）「消費地市場を対象とした水産物SCM支援システムの構築」 同：植竹俊文 「公設牧野における乳牛管理システムの提案」 同：菅原光政 「経営診断学と経営コンサルティングについて」</p>
<p>平成26年11月29日 (2014年) 第5回合同研究発表会</p>	<p>発表者：宮 健「強い会社になるための10カ条」 同：菊池登（学会員、診断士協会） 「超高齢化社会における企業経営のあり方」 同：田中眞二郎（診断士協会） 「酪農におけるマネジメントサイクルの作り方」 同：植竹俊文「乳製品を対象にしたトレーサビリティシステムの提案」 同：堀川三好「ウェアラブルデバイスの最新動向」</p>
<p>平成27年11月7日 (2015年) 第6回合同研究発表会</p>	<p>発表者：宮 健「決算書を利用する立場からの提言」 同：小田島広実（診断士協会） 「岩手県の外食産業概観について」 同：日脇時生（県立大4年） 「入居型介護施設における業務システムの構築」 同：鳥居勇起（県立大4年） 「観光分野における地域情報の活用の提案」 同：岡本 東（県立大学准教授） 「情報技術の活用による商店街活性化支援」</p>

第7回合同発表会は、平成28年11月12日に開催しました。

(敬称略)